

## 編集後記

新潟国際情報大学経営情報学部紀要（Vol. 3）が発行されました。論文を執筆された著者の皆さん、またご協力頂いた本学総務課の登坂幸太さん、および印刷・校正を担当された（株）第一印刷所の滝澤勇太さんに感謝いたします。

平成6年（1994年）に開学した新潟国際情報大学は、今年は新たな四半世紀のスタートの年にあたります。少子高齢化など社会的な課題が山積しておりますが、これまで培ってきた教育と研究の成果がこれらの課題解決に少しでも寄与することを願っています。平成30年4月にスタートした経営情報学部は今年、3年目を迎えます。3年生から経営学科では研究ゼミナールが、また情報システム学科では卒業研究が始まります。2年間にわたる研究活動は学生にとってこれからの人生を歩んでいく上で貴重な経験となり、それを指導する教員たちにとっても学生たちの多様な視点や活発な活動に学ぶことが多いはずです。

本号（Vol. 3）では、紀要論文8本、研究ノート2本を収録しております。10本の内訳を第1著者に着目してみると、退職者が3名で5本と収録論文の半数を占めています。経験豊かな高齢の研究者の活躍が目立ちます。若手教員たちが外部競争資金を得て研究の中間報告や成果報告を学会の査読付き論文として投稿する傾向にあり、中堅教員たちは学内業務に追われ研究にさける時間が少なくなっていることも関連しているように思われます。

経営学科の設置、そして昨年の社会連携センターの設置を追い風として、学生と教職員による地域活動が益々盛んに展開されています。また、地域の団体と連携した取り組みも増えてきています。こうした多彩な地域活動の報告や、各種審議会や検討委員会の委員として引き受けている業務を専門的な見地から分析検討し新たな施策を提案するような論文も期待しております。

本年は、滞っていた紀要論文執筆要領などの見直しと紀要論文の在り方について検討を行っていく予定です。ご意見等ありましたら、連絡頂ければ幸いです。

経営情報学部長  
（兼）紀要編集委員長  
小林満男